

第70回景気動向調査 (2020年下半期)

マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)

2020年8月

注1: JACTIM会員企業585社に、2020年7月13日～8月21日にかけて、2020年下半期の景気動向を中心に質問した内容について集計している。178社(内訳: 製造業115社・64.6%、非製造業63社・35.4%)から回答を得た。回答率は30.4%となる。

注2: Web上での調査票配布・回収を行っている。

注3: マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)では、年に2回(上半期と下半期)にJACTIM会員企業に景気動向調査を実施している。

2020年下半期の景気動向【要旨】

- 業況判断DIは、▲57.9ポイントと本調査開始以降で最低水準。来期予測は▲41.6ポイントと若干の改善予測も引続きマイナス幅は大きい。
- 従業員数DIは、+23.0ポイントと引続き過剰。来期も+17.4ポイント予測。
- 需給判断DIは、▲34.8ポイントと供給過多。来期も▲17.4ポイント予測。
- 来期は全てのDIで改善予測もCOVID-19と一進一退の状況は不変。

(1)業況判断DIは、5期連続のマイナス。本調査開始以降で最低水準。

2018年上期には、+7.1ポイントと景況感に関して改善の兆しが見られたが、今期は▲57.9ポイントと5期連続でのマイナスとともに本調査開始以降の最低値を更新。

(2)従業員数DIは、本調査開始以降初めて二桁ポイントの過剰。

2019年下期にリーマンショック以降初めて+1.4ポイントの過剰に転じた。以降過剰トレンドは継続。今期は+23.0ポイントと初めての二桁ポイントの過剰を示すとともに、来年上期も+17.4ポイントと従業員数は引続き過剰となる予測。

(3)業界の需給判断DIは、2012年以降最低水準

2012年上期(▲37.7ポイント)以降、最低となる▲34.8ポイントを記録し、供給超過がさらに拡大している。尚、来年上期は▲17.4ポイントと今期比半減予測も引続き供給過多は不変の見通し。

(4)COVID-19により景況感は大幅に悪化

COVID-19に伴う影響で各DIは本調査開始以降で最低水準を記録。一方で、政府による景気刺激策や海外需要の改善等により来年上期は全てのDIにおいて若干の改善見込み。

業況判断DIの推移

期間	回答社数	①良い		②かわらない		③悪い		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
17年上期	148	21	14.2	93	62.8	34	23.0	-8.8
17年下期	191	47	24.6	101	52.9	43	22.5	2.1
18年上期	182	38	20.9	119	65.4	25	13.7	7.1
18年下期	250	47	18.8	143	57.2	60	24.0	-5.2
19年上期	285	43	15.1	145	50.9	97	34.0	-18.9
19年下期	291	39	13.4	126	43.3	126	43.3	-29.9
20年上期	160	21	13.1	72	45.0	67	41.9	-28.8
20年下期	178	17	9.6	41	23.0	120	67.4	-57.9
21年上期予測*	178	23	12.9	58	32.6	97	54.5	-41.6

従業員数DIの推移

期間	回答社数	①過剰		②適正		③不足		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
17年上期	150	14	9.3	110	73.3	26	17.3	-8.0
17年下期	191	25	13.1	126	66.0	40	20.9	-7.9
18年上期	182	15	8.2	129	70.9	38	20.9	-12.6
18年下期	251	19	7.6	194	77.3	38	15.1	-7.6
19年上期	283	35	12.4	208	73.5	40	14.1	-1.8
19年下期	287	53	18.5	191	66.6	49	17.1	1.4
20年上期	160	30	18.8	112	70.0	18	11.3	7.5
20年下期	178	50	28.1	119	66.9	9	5.1	23.0
21年上期予測*	178	44	24.7	121	68.0	13	7.3	17.4

需給判断DIの推移

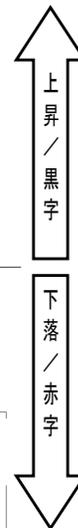
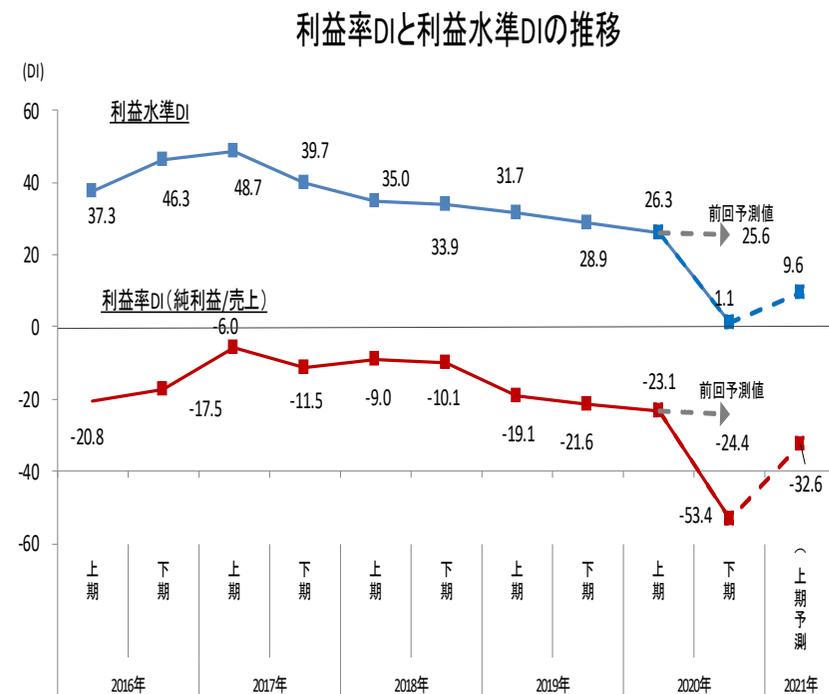
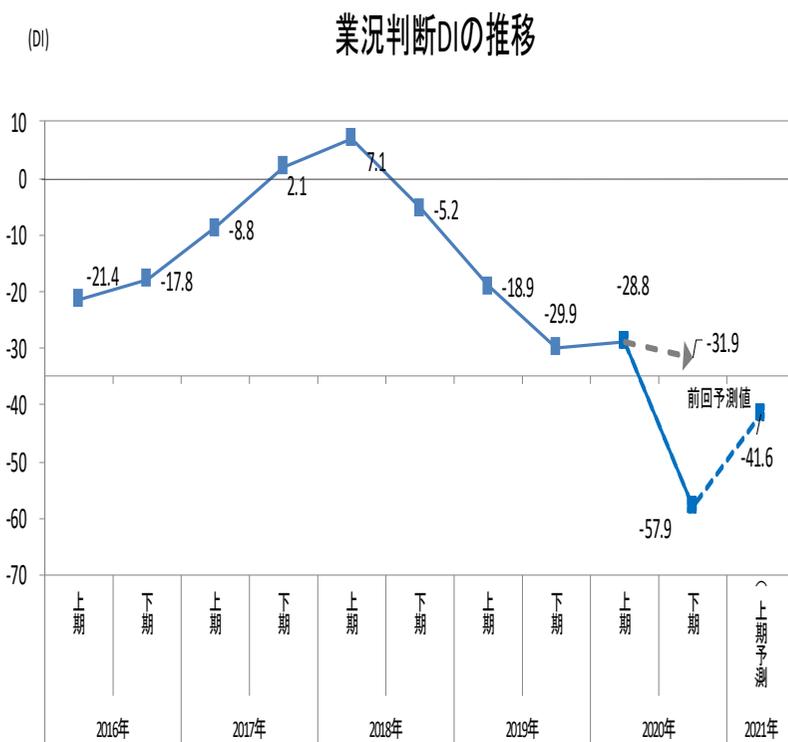
期間	回答社数	①需要超過		②均衡		③供給超過		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
17年上期	101	16	15.8	68	67.3	17	16.8	-1.0
17年下期	137	18	13.1	94	68.6	25	18.2	-5.1
18年上期	174	22	12.6	118	67.8	34	19.5	-6.9
18年下期	236	30	12.7	157	66.5	49	20.8	-8.1
19年上期	270	16	5.9	170	63.0	84	31.1	-25.2
19年下期	269	11	4.1	158	58.7	100	37.2	-33.1
20年上期	160	10	6.3	95	59.4	55	34.4	-28.1
20年下期	178	12	6.7	92	51.7	74	41.6	-34.8
21年上期予測*	178	23	12.9	101	56.7	54	30.3	-17.4

*2020年下半期アンケートでの2021年上半期の予測についての回答

注:各DI値=(「①」とした企業数-「③」とした企業数)/(回答企業数)×100
*2020年下半期アンケートでの2021年上半期の予測についての設問に対する回答

1. 2020年下半期の景況(業況、利益状況)

- 業況判断DIは▲57.9ポイントと5期連続のマイナスとなり、本調査開始以降の最低水準となった。来期は今期比+16.3ポイント改善の▲41.6ポイント予測も引き続きCOVID-19に起因した景況感の悪化は継続見込み。
- 利益率DI及び利益水準DIについても、前回予測値を大幅に下回る結果となったが業況判断DIと同様、来期は改善を見込む。



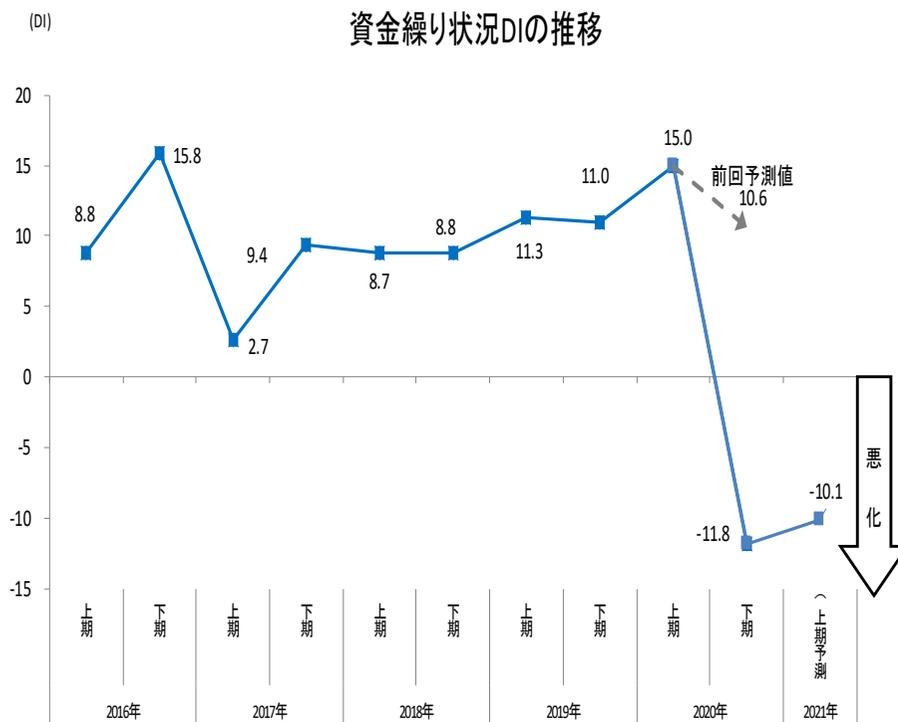
注: 業況判断DI = (「よい」とした企業数 - 「悪い」とした企業数) / (回答企業数) * 100

注(1): 利益率DI = (「上昇」とした企業数 - 「下落」とした企業数) / (回答企業数) * 100

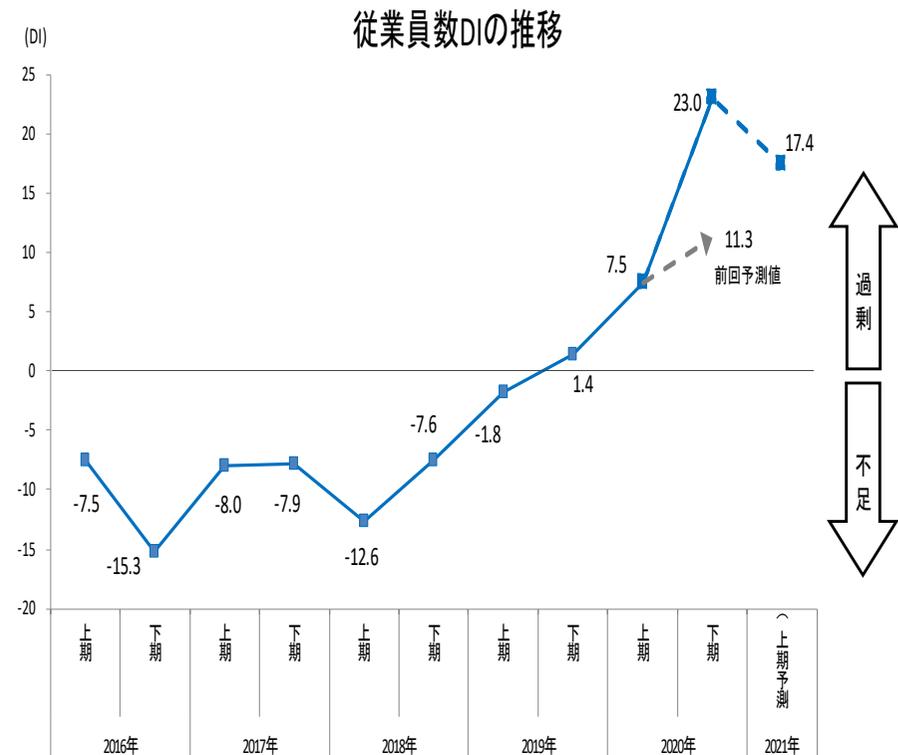
注(2): 利益水準DI = (「黒字」とした企業数 - 「赤字」とした企業数) / (回答企業数) * 100

2. 2020年下半期の景況(資金繰り、従業員数)

- 資金繰り状況DIについては、COVID-19の影響もあり、前回予測(+10.6ポイント)を大幅に下回る▲11.8ポイント。来期予測も▲10.1ポイント(今期比+1.7ポイント)とほぼ横這いとなり来期も引続き厳しい資金繰りが見込まれる。
- 従業員数DIは、前回予測+11.3ポイントを大幅に上回る+23.0ポイント。来期予測は+17.4ポイントと依然2018年以降の急激な過剰トレンドは継続。



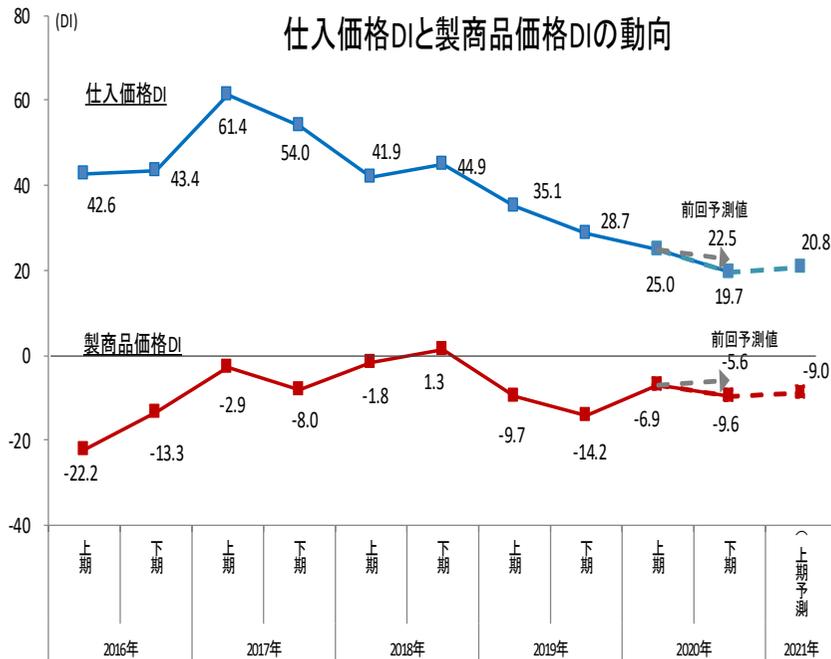
注: 資金繰りDI = (「楽」とした企業数 - 「苦しい」とした企業数) / (回答企業数) * 100



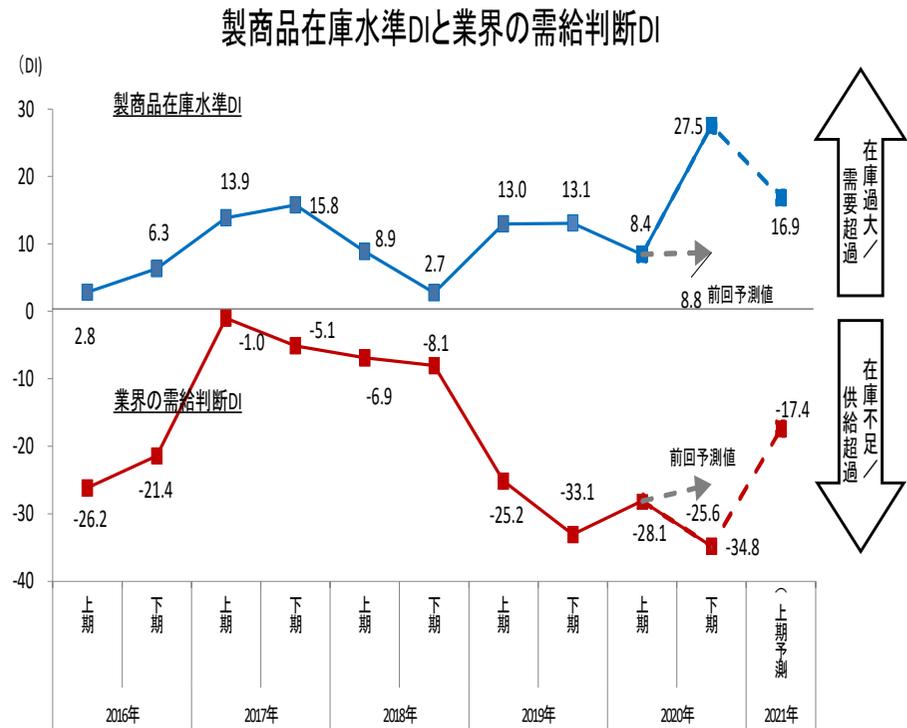
注: 従業員数DI = (「過剰」とした企業数 - 「不足」とした企業数) / (回答企業数) * 100

3. 製造事業者の景況

- 仕入価格DIは、4期連続で下落の+19.7ポイント。製商品価格DIは▲9.6ポイントと4期連続のマイナス値。来期は共に若干の上昇予測も2019年以降の仕入価格下落トレンド及び製商品価格マイナス値予測は不変。
- 製商品在庫水準DI及び需給判断DIでは供給過剰に伴う在庫過大に加え、COVID-19に伴う内需縮小に伴う急激な在庫余剰が顕著。但し、来期はともに大幅に調整される予測。



注(1): 製商品価格DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数) * 100
 注(2): 仕入価格DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数) * 100



注(1): 製商品在庫水準DI=(「過大」とした企業数-「不足」とした企業数)/(回答企業数) * 100
 注(2): 業界の需給判断DI=(「需要超過」とした企業数-「供給超過」とした企業数)/(回答企業数) * 100

4. 業績に影響を与える要因

- マレーシア経済動向及び為替動向が依然として高い水準にあるものの、今期は当然にCOVID-19が最も業績に影響を与える要因となっている。
- セクター別に個別要因があると判断するが、活動制限令が段階的に解除される一方で、COVID-19以前の業績水準に達するには、相応の時間を有するとの回答が全般的に確認された。

業績に特に影響を与える因子

